## 第7回県政知事懇談

# 湯崎英彦の地域の宝 チャレンジ・トーク (北広島町)

と き 平成26年11月15日(土) ところ JA広島北部千代田支店 講堂

		目	次	頁
開	会			1
知事挨	拶			1
事例発	表者紹介			$\cdots 2$
事例発	表②			8
事例発	表④			…17
閉	会			21

広 島 県

## 開 会

#### 〇司会(槙埜)

皆さん、こんにちは。(「こんにちは」の声あり)大変長らくお待たせをいたしました。 ただ今から「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジトーク」を開催いたします。

私は,広島県広報課の槙埜と申します。

本日は、チャレンジに向けて、元気の出る会にしたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。(拍手)

## 知事挨拶

#### 〇司 会

それでははじめに、湯﨑英彦広島県知事がご挨拶を申し上げます。

#### ●知事 (湯崎)

皆様,こんにちは。(「こんにちは」の声あり)本日は土曜日で,皆様ご多用にもかかわらず,たくさんお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

このチャレンジトーク,今回で北広島は4回目になりますけれども,また改めてこうやって来られたことを大変うれしく思っております。やっぱり北広島は寒いですね。朝,芸北でトマト栽培の研修をされている方のところを訪問させていただきました。芸北の学校のところからすぐだったのですけれども,とても寒くて,昨日雪が降ったということもお伺いしましたけれども,それからその後,どんぐり村で今日はそばまつりをやっておられるということで,そちらに行かせていただきました。

今日お昼にも実は町長からお話をお伺いしまして、北広島も、去年は引っ越す人と転入 してこられる方と、転入のほうが多かったと。プラスになりましたということで、着々と 地域の力が発揮されつつあるというのを今日も改めて感じた次第であります。

これまでにこのチャレンジトークを開催させていただきまして,500 人を超える発表者の皆さんに発表をいただきました。こうやってお集まりいただいている皆様も合計すると七千数百人ということになっているのですけれども,毎回この会をやらせていただいて,本当に私自身も元気をいただいて帰っております。

今日も4組の方に事例発表していただくのですけれども、きっとすごく元気をいただけるのではないかと楽しみにしているところです。

地域の課題はいろいろありますけれども、先ほど申し上げたように、今、大きな流れとしては、ある意味でいうと田舎にもう一度注目しようと、若い人が都会から自然の中で暮らしたいという流れもできつつあります。国でも、ご承知だと思いますけれども、「まち・ひと・しごと創生本部」というのをつくって、大都市から地域に人の流れをつくっていこ

うということをやっています。我々も是非この機会を逃さないように,我々自身が持っている地域のいろいろな力であるとか,宝であるとか,それを磨いていって,魅力ある,そして活力のある地域にしていきたいと思っている次第であります。

今日の4組の皆さんからは、そういった地域で力を発揮されているところをお伺いできると思っております。

これから少し長い間お付き合いいただくことになりますけれども,できれば最後までお付き合いいただければと思っています。どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。(拍手)

すみません。一つ言い忘れました。この会の開催にあたっては、箕野町長をはじめとして北広島町の皆様に大変ご協力をいただいております。改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

#### 〇司 会

湯崎知事, ありがとうございました。湯崎知事, 檀上のお席にお移りください。

## 事例発表者紹介

#### 〇司 会

それでは、本日の事例発表者の皆さんをご紹介いたします。発表者の皆さんは檀上にお 上がりください。順にご紹介してまいります。

夫婦で木版画制作などの芸術活動に取り組む傍ら、子供を対象にした木版画制作の体験 会や、北広島町の行う農村体験推進事業に参画し、町内外の子供たちと交流を図っておら れる芸術家の島田愛子さんです。(拍手)

空き家となっていた古民家を再生し、懐石料理店「空城さくら亭」をオープンされ、地域における新たな賑わいづくりに取り組んでおられる懐石料理店「空城さくら亭」支配人の勝田誠二さんです。(拍手)

農業に興味を持ち、現在では一人で畑を耕し、収穫できるまでになっておられる大朝中学校2年生の大野翔汰さんと、学校紹介をしてくださる2年生の國芳勝也さんです。(拍手)

幅広い異年齢集団による授業・行事等を通じ、豊かな人間性・社会性を育んでいる豊平 中学校3年生の西本航大さんと2年生の平田有香さんです。(拍手)

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様は、いったんお席にお戻りください。 ここからは湯崎知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは、湯崎知 事、どうぞよろしくお願いいたします。

## 事例発表①

#### ●知 事

それでは改めましてよろしくお願いします。本日事例発表していただく4組の皆さんは、 それぞれ地域や職場あるいは学校等で積極的な活動をして挑戦を続けておられる皆様であ ります。

最初に発表いただきますのは芸術家の島田愛子さんです。芸術家という響き,自分には 絶対になれなかったものの一つでありますが,改めて島田さんをご紹介させていただきま すと,島田さんは平成10年に北広島町に移住されて,先ほどご紹介にあったとおり,ご夫 婦で木版画制作等の芸術活動に取り組んでおられます。

その傍ら、北広島町の行う農山村体験推進事業に参画して、これは民泊ですね。子供たちを家に泊めて、そしていろいろな体験活動をするという活動ですけれども、この民泊を受け入れて、子供たちとの交流を図っておられます。

また,ギャラリー「ポロンピーガロン」をオープンされて,木版画教室や生け花教室なども開催して,住民の皆さんと交流を活発に図っておられるということです。

今日の発表のテーマは、「北広島での芸術活動と子供たちとの触れ合い」です。それでは 島田さん、よろしくお願いします。

#### 〇事例発表者(島田)

はじめまして。私は大朝で夫とともに木版画の制作を頑張っています。そのチャレンジを発表させていただきたいと思います。

私が北広島町大朝に移住してきたのは、今から 17 年前です。17 年前、夫も私も東京の 美術大学で日本画を学んでいました。卒業したらどこで作家活動をするのかを考えていま した。でも、東京で作家活動はしたいとは思っていませんでした。東京にいた 5 、6 年間 で分かったことは、自然をテーマに作品をつくりたいということでした。自然をモチーフ にするということは、とにかく大自然に囲まれて暮らさなければという思いが、そういう 結論に達しまして、卒業と同時に二人でこちらに移住することになりました。

大きな志を持って移住してきたのですが、本当に紆余曲折でした。生活や子育てに追われながら日々を過ごしていました。主人はあこがれだった林業に就き、慣れるのには時間がかかってなかなか絵を描く時間もなく、大変でした。

私たちが木版画を始めたのは12,13年前です。それまでは日本画をしていましたが、苦労して書いた作品がすべて火災で焼失してしまいました。私たちはやる気をすっかり失ってしまっていたところに、何年か前に少しだけ始めていた木版画を見て、そうだ!これしかない。木版画でいこう!ということで、二人で同じことを始めました。

けれど、始めてみましたが、人様に見せられるような作品になるまでは 10 年かかりました。

こちらは主人の作品です。2011年の作品で奨励賞をいただきました。この作品を制作し

ている最中に、夫は山仕事で事故に遭い、右肩鎖骨を粉砕骨折し、退院後に片腕で制作したものです。この作品も自然からインスピレーションをもらってできた作品です。

こちらの作品は山仕事の最中にひらめいた作品だそうです。

こちら,左の絵は私の大学の卒業制作です。題名は「いきとしいけるもの」ですが,自 分は自然と共存して生きていきたいと強く思っているのが分かります。

右の作品は今年のものです。振り返ると学生時代のテーマと変わっていないことに気が つきました。

こちらの作品は子供たちと一緒に大朝の岩戸で行われる「ほたるまつり」に行ったとき にひらめいた作品です。夫婦ともに北広島町の自然からインスピレーションを受けて作品 をつくっています。

北広島町の自然,暮らしからたくさんのインスピレーションをいただきながら制作をしている私たちですが,10年前,何か木版画で地域のお役に立ちたいと思ったことがきっかけで,夫婦でユニットを組みました。ユニット名は「ポロンパ」と言います。こちらはポロンパのロゴマークです。耳は彫刻刀です。二人の能力を合わせてよりよいものをつくろうという願いが込められています。「ポロンパ」の意味は,作品がポロン!パッパッとたくさんできるようにという願いが込められています。

ポロンパ結成当時の夢を紹介します。ポロンパの夢!ポロンパアートで人々を幸せにしたい。ポロンパアートで人々に感動を与えたい。

では、木版画で何をしたら人の役に立てるのか。思いついたのは、自分たちの住んでいる町のいいところを作品を通して知ってもらいたいということです。みんなに知ってもらうには、広告やパッケージのデザインだと思いました。いろいろなところに声をかけてポスターをさせていただいたり、地元の商品のパッケージをさせていただいたりしました。 写真とは違い、見えるものだけではなく、見えないものも表現することができます。

前の絵とこちらの絵は、大朝で行われる春祭り「わさまち」のポスターです。

こういった活動が少しずつ広がって、地域の広報誌などもさせていただけるようになりました。地域のことをアピールできる作品がつくれるようになったのは、これも17年の歳月のおかげだと思っています。

広報誌では自分たちがすばらしいと思う北広島町の自然,風景,文化を作品にしています。

こちらは商品のパッケージデザインです。今までたくさんのパッケージやロゴのデザインをさせていただきました。

千代田インターにあります「舞ロード」でも幾つかポロンパのデザインさせていただいたものがあります。そして、ポロンパのポストカードも販売しております。

このように作品がどんどんとできてくれば、それらの作品をいつでも見てもらえるよう なギャラリーがほしいと思うようになり、去年自宅近くにオープンしました。作品を見て もらうだけではなく、地域の交流の場になってくれたらなと思うようになりました。

ギャラリーの名前は「ポロンピーガロン」。「ポロンピー」は「ポロンパの」という意味で,「ガロン」は画廊とサロンをもじりました。

オープンしたては作品を展示しているだけでしたが、自然な流れで人も集うようになり、 様々なイベントも開かれるようになりました。

毎週すてきにお花を生けてくださる生け花の先生、そのお花を描きに来られる方。ここにいらしてくださるみんなが「幸せだな」「ここに来ると癒やされるよ」とおっしゃってくださいます。

そして、ここに集まるお客さんたちがときには先生をしてくださることがあります。

「私,こんなの作っているのよ,楽しいわよ」とおばあさん。「え~それ,やってみたいな」と子供たち。ポロンピーガロンはこのようにとてもすてきな空間になっています。

イベントの当日に, 見るに見かねて草を取ってくださいました。

このように「ポロンパ」も「ポロンピーガロン」も地域の皆様に支えられております。 本当にありがたいです。

そしてもう一つ、私たちが頑張っていることですが、去年から民泊を受け入れることになりました。今年は12校の小学5年生がわが家にやって来ました。野菜の収穫や食事づくり、自然体験を一緒にします。子供たちと3泊4日寝起きを共にします。

こちらは野草茶を摘んでいるところです。家の周りに生えている野草を集めて、これを 乾かして、煎って、完成したお茶を持ち帰ってもらっています。

こちらは米の籾殻を燃料にしたストーブでご飯を炊いたり、竹を切りに行って、竹でお釜をつくってご飯を炊いたりします。子供たちは目を輝かせて体験してくれます。3日目にはみんなたくましくなって、自分たちだけでできるようになるんです。こうやって山には宝がいっぱいあることを子供たちに伝えたいと思ってやっています。

主人は民泊のプログラムになっている林業体験で指導をさせていただきました。こんな ところで自分の出番があるとはうれしいと言って喜んでいます。17 年前は筆しか持ったこ とがなかったのにと思うと、夫もたくましくなったなと思います。

民泊体験は素晴らしいプロジェクトだと思います。このプロジェクトはこれからもずっと、ずっと続いてほしいです。

うちの子は民泊のおかげでおもてなしの心が身につきました。子供たちが大人になって、 わが家を訪ねてくれたらうれしいなと思っています。

最後に、もう一度これから私たちの目標を申し上げたいと思います。アートで人々を幸せにする。自分たちの作品で人々に感動を与える。北広島町の素晴らしさを伝えていく。 みんなの幸せのために活動する。以上、宣言させてもらいましたので、これからも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。これで発表を終わらせていただきたいと思います。最後までお聞きくださいましてありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

島田さん、ありがとうございました。東京で日本画を勉強されたということで、ご出身は、先ほど出ていましたけれども、島田さんは呉ご出身で、ご主人は倉敷ご出身ということで。

#### 〇事例発表者(島田)

はい。

#### ●知 事

お二人とも、どちらかというと都会というか、まちのお生まれで、お育ちですね。

#### 〇事例発表者(島田)

はい。

#### ●知 事

この自然の中でというのは、イメージとしては芸術家で分かるような気もするのですけれども、実際に住まれたことはなかったわけでしょう。

#### 〇事例発表者(島田)

はい。

#### ●知 事

最初は戸惑いませんでしたか。

#### 〇事例発表者(島田)

戸惑いました。雪もたくさん降りますし、最初に紆余曲折たくさんありましたと言いま したが、自然の厳しさにも最初はやられまして、今はもうすっかり慣れたんですけれども、 それも 17 年ぐらいかかったと思います。

#### ●知 事

こう言うのも失礼ですけれども、芸術で食べていこうと思うと、なかなか大変なことだと思うのですが、最初は、それこそ学生を卒業したばかりで、そういう芸術についてもこれからというところで、しかも知らない土地に移り住んで、それこそお仕事のほうもなかなか大変で、自然も厳しくて、後悔することはありませんでしたか。

#### 〇事例発表者(島田)

最初の2~3年ぐらいは出たいなと思ったことも何回もあります。しかし、地域の方々に支えてもらったおかげで、出なくて済んだんだと思います。

#### ●知 事

では、最初から地域の皆さんに温かく迎えていただいたということですかね。

#### 〇事例発表者(島田)

はい。本当にとてもよくしていただきました。

#### ●知 事

先ほど拝見すると, 作品も日本版画会とかの賞をご夫婦とも受けられたり, 奨励賞を受

けられたり、すばらしいと思うのですけれども、やっぱり北広島というのは力になっていますか。

#### 〇事例発表者(島田)

なっています。まずは、ご近所の方もそうなのですけれども、今年結果はどうだったんと聞いてくださったり、出した作品が戻ってくると、地域の方に見ていただくようにしているんですけれども、それが支えになって、頑張って賞も取りたいという野心が生まれてきているんだと思います。

#### ●知 事

なるほど。エネルギーになっているということですね。

それから、サロンとギャラリーを一緒にしたガロンということで、たくさん人が集まってこられるようになったということですが、たくさん来られるようになったきっかけというのは何かあったんですか。

#### 〇事例発表者(島田)

本当に自然発生的なんですけれども、少人数の方から口コミもありますし、皆さん集まってくださる方がいろいろ特技を持っていまして、それでまた教えてもらいたいという人があらわれたり、私たちも木版画を教えたりするんですけれども、教えたり、教えてもらったりする関係で、そういう絆みたいなのが自然に生まれてきて、それでたくさんの方に来てもらうようになりました。

#### ●知 事

なるほどね。都会でこういう教室とかギャラリーをやると、それだけに来られて、それ だけで帰られることが多いと思うんですけれどもね。

#### 〇事例発表者(島田)

そうですね。

#### ●知 事

それだけじゃなくて、だんだんいろいろなことに広がっていくという。

#### 〇事例発表者(島田)

そうですね。

#### ●知 事

最後にもう一回お伺いしたいんですけれども、なかなか食べていくのは大変ですよね。 特に芸術家として作品を発表するというのもありますし、作品が売れていくということも 必要なことだと思うのですけれども、都会でやるのと、田舎でやるのと、どっちがいいと 思いますか。

#### 〇事例発表者 (島田)

そのまま東京でやっていたら、それなりに頑張っていたかなと思うんですけれども、やっぱりお膳立てもある中でやるわけで、自分は成長できたかなと思うと、成長できていない

んじゃないかと思います。こっちのほうがそういう条件も整っていない分,負けないで頑張りたいという気持ちが強くなるので、それが本当に力となっていってくれたんだなと思います。

#### ●知 事

なるほど。よく都会で仕事をするときには情報というのがありますけれども、企業でも都会に、東京なんかに集まりますけれども、それは情報ですね。芸術家の方々も、多分その情報というのはすごく大事で、腕一本でやっておられるように見えるかもしれませんけれども、実は仲間内のつながりだったり、どんなことがどういうふうに行われているかという情報はとても大切だと思うのですけれども、それでも、それを乗り越えて自分の創作意欲というか、皆さんに支えられていることがモチベーションになって発揮していく力になっていったということですね。

#### 〇事例発表者(島田)

はい。

#### ●知 事

ありがとうございます。島田さん、本当に楽しみですよね。芸術の面でも今、評価されて、そして地域にもすごく貢献をされて、人の輪も「ポロンピーガロン」を中心につくっていかれているということでありますので、本当にこれから地域の皆さんとともに頑張っていただければと思います。島田さんにもう一度大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

#### 〇事例発表者(島田)

ありがとうございました。(拍手)

## 事例発表②

#### ●知 事

次の発表をお願いしたいと思います。次の発表者は懐石料理店「空城さくら亭」支配人の勝田誠二さんにお願いいたします。

勝田さんを改めてご紹介いたしますと、勝田さんは空き家となっていた古民家を再生して、先月12日、できたてですね。懐石料理店「空城さくら亭」をオープンされました。自然豊かな景色の中で、芸北アマゴを中心に地元産の食材を使用した懐石料理を味わうことができるそうです。

ちなみに、この「空城さくら亭」をご存じの方。半分弱ぐらいですね。これを機に、是 非皆さん行ってください。

そして、学生時代には長距離陸上とクロスカントリーで活躍されたということで、現在は総合型地域スポーツクラブ「芸北道場」で後輩の指導も行っておられるということです。 今日の発表のテーマは「maid in 芸北」です。それでは勝田さん、よろしくお願いしま す。

#### 〇事例発表者 (勝田)

皆さん,こんにちは。(「こんにちは」の声あり)

見ての通りきれいな桜が咲いております。これは春に撮った写真ですが、今日は「maid in 芸北」というところで僕の話をさせていただきたいと思います。

まず最初に自己紹介をしますが、私はヒラト産業株式会社「空城さくら亭」の勝田誠二と申します。

ここから少し自慢も入りますが、私はこの隣の芸北生まれ、芸北育ちで、高校卒業までずっと芸北で過ごしてきました。今、芸北では保幼小中高一貫教育というものをやっていますが、これの第1期生に当たります。ずっと芸北で育ってきました。

幼少のころからずっとスキーに親しんできまして、特に高校1年生から大学卒業までの7年間、7年連続で全国入賞もしております。これがそのときの写真です。今では広島県のほうでスキーも少し取り上げられていますが、当時僕らは取り上げられることもなく、僕は実はインターハイでも準優勝しているんですが、多分知らない方のほうが多いと思います。

そういった形で、大学卒業後は別の職業に就いておりました。しかし、地元に帰って地域に貢献したく、また、芸北でなければだめなんだという思いもあって、こちらのほうに帰ってきました。そして、現在の会社に勤めています。いわば I love 芸北です。私は芸北が大好きです。

会社以外にも、先ほど紹介もありましたが、こういった形で様々なスポーツ振興のお手 伝い、そして指導のほうもしております。

さて、この「maid in 芸北」、なぜこの主題にしたかといいますと、先ほど言いましたように、僕は芸北が好きで、芸北から何かを発信したい、何かをつくりあげたいという思いがあって、今回この主題にいたしました。

先ほど知事も言われたとおり、先月 10 月 12 日に芸北の空城地区、空城といってもぱっと出てこないと思いますが、安芸太田町と八幡のちょうど境、191 号沿いにあるのですが、そこに「空城さくら亭」という、土日祝日完全予約制の懐石料理、また、平日はコーヒーとケーキをお出ししておりますが、そちらのお店を開店しました。

私がこの「空城さくら亭」で一番やりたいこと、それは「地産地活」というものです。 よく聞くのは地産地消だと思うのですが、地産地消というのは、地で仕入れたものをその まま消費をするというだけですが、僕が考える地産地活は、地のものは当然地で生かしま す。これだとまだ地産地消になってしまうのですが、それにかかわるすべての人も地元の 人でやりたいという思いがあります。地元の人を使って活性化させることで、もちろん地 の人のやる気も出ますし、またそれが地域の発展につながるのではないかと思っています。 こういった流れを芸北からつくりあげていきたいと思います。 「空城さくら亭」は、もともと河野さんという方の住居でありました。しかし、20年ほど前に市内のほうに引っ越されて、その後親戚の方が家の管理をされておりましたが、管理といっても、池があったり、茶室があったり、母屋があったり、納屋があったり、裏にはたくさんの田畑、山があります。そういった広い敷地、大きな施設を管理するのは大変ということもあり、空き家バンクにそのお家を出すという話がありました。その話を弊社の社長が耳にして、その土地の管理はもとより、飲食店として開業したいという話を打診し、今回のオープンに至ったという経緯があります。

10月12日にオープンしましたが、やはりオープンにかかわっても maid in 芸北を貫き通しました。例えば今回改築をしていただいた業者さんは、90%以上芸北の方にやっていただきました。大工さんであったり、電気工事屋さん、配管、植木屋さん、建具屋さん、その他もろもろたくさんの業者さんにかかわってもらいましたが、常に私たちと対話をしながらいいものをつくりあげていただきました。その中でもやっぱり多くの時間を割いたのは大工さんです。大工さんが使う木材もほとんど芸北の業者さんから仕入れ、加工し、施工するという私たちの思いも踏まえて大工さんも maid in 芸北ですばらしいものをつくっていただきました。

これは改築途中の写真ですが、築 100 年以上の古民家ですので、座のほうがかなり傷んでいて、これを自分たちでいったん全部壊しました。つくりあげるのは大工さんにお願いしたという経緯があります。

こちらに使っている木材もほとんど芸北の工場でつくってもらって, うちのほうで使わせていただきました。

これが一番こだわった洗面所ですが、これも芸北の木材を使った洗面台になっています。 後ろの白壁も業者さんに頼んだのではなくて、自分たちで塗りました。完全なハンドメイ ドでこの古民家ができております。

具体的な地産地活のイメージですが、これは先週お出しした料理の一部です。これは前菜です。左は、芸北りんごを使った「芸北りんごと長芋の黄身酢あえ」というものです。これも地物を使っています。真ん中、こちらも地物の紅芋を使った「紅芋スイート」、スイートポテト風に仕立ててあります。そしてわが社で養殖している「芸北アマゴ」、こちらは甘露煮にしてお出ししています。そして一番右にありますのが、地物の里芋を使った「里芋の田楽」、そのほか、この下の木のお皿は私がつくりました。こういった葉っぱ、栗なども全部芸北の山でとってきたものです。

そのほか「空城さくら亭」には芸北の職人さんによる技というものが随所に光っております。こちらのテーブルは、芸北の工務店さんに無理を言ってつくっていただいたものです。椅子だけ持って行ってつくってくださいと言ったら、「よし、任せ」という感じで快く引き受けていただきました。また、こちらの写真、奥にあるものですが、これはひょうたんでつくった間接照明になっております。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、「Toshi

のひょうたん」というところでこちらをつくっていただきました。この手前にある花も, 弊社の社長のお母さんが毎週飾ってくれています。そういったように, 見た目, 空間も僕 らでご提供させていただいています。

また、現在「空城さくら亭」の従業員は90%以上芸北在住の方でまかなっています。そして100%、この北広島町に住民票を置いている方でまかなっています。

そこで少し驚きかもしれませんが、うちの従業員全員が20代、30代です。40代以上は全くおりません。エネルギッシュで地域を盛り上げるという一心で、ただいまオープンしたてですので一生懸命働いております。

ここに2枚の写真をお出ししたのですが、注目していただきたいのはこの左の写真。これはアマゴの塩焼きです。この塩焼きは、普通地産地消という考えでしたら、ガスで焼いてそのまま提供すると思いますが、私たちは地産地活ということを頭に置いておりますので、こちらは完全な炭火で焼きます。その炭は芸北でやっている「せどやま再生事業」でつくられた木材を購入して、自分たちで炭をつくって、その炭でこのアマゴを焼いています。これは少し煙が出ておりますが、この煙という演出も、農繁期が終わりましたので、脱穀した籾殻に火をつけて煙を出す。これまた臭いがアマゴについて大変おいしくいただけます。

あと、こちらの刺身ですが、分かりにくいのですが、この下の氷ですね。これは実は氷の器になっています。こういったものをやるというアイデア、これも自分たちが料理長とかその他の従業員と一生懸命話し合いをして出した案でございます。

そういった形で私たちがまず考えて、率先して地域を引っ張るということで再び活気の あふれる町になるのではないかと思っています。

地元の物を地元で生かす。そして、それにかかわるのはすべて地元の人というサイクル をこれからどんどん提唱していきたいと思っています。

そして、それをただやるだけではなくて、やはり外部に発信するということを今後していきたいと思っています。すべては地産地活、そして、芸北にはすばらしい伝統や文化、そして物、何よりも厚い人のつながりがあります。この地産地活では地域の循環をよくして盛り上げるだけではなくて、そういった守られてきたもの、そういったものもずっとつくりあげる。そして、それを僕らから下の年代にしっかり伝えるということをしていきたいと思います。

まだまだ新装開店したばかりで、これからどんなふうになるか分かりませんが、まずは この地産地活を第一の目標として今後も展開をしていきたいと思います。以上で僕からは 終わります。本日はご清聴ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

勝田さん, どうもありがとうございました。Maid in 芸北ということで, 勝田さん自身 も maid in 芸北なわけですよね。

#### 〇事例発表者 (勝田)

そうですね。

#### ●知 事

そこもこだわられて,この新しい「さくら亭」ですけれども,20 代から30 代の皆さんばかり。

#### 〇事例発表者 (勝田)

そうですね。

#### ●知 事

皆さん、もともと芸北とか北広島の方なんですか。

#### 〇事例発表者 (勝田)

1名だけ、もともとは福山市で、芸北にもう十何年もいらっしゃって、もう名前を言えば「ああ」というようななじみのある方なので、そういった形でやらせていただいています。

#### ●知 事

なるほど。古民家の再生からいろいろな過程を経てオープンされていると思うのですが、 こうやって見ると、芸北の中にもいろいろな、まさに匠の技とか、いろいろありますね。

#### 〇事例発表者 (勝田)

そうですね。自分たちが知らない以上に、人と人とがつながって初めて知り得る情報から、そういったものがあるんだという発見もあって、今回このような形になったので、業者さんと話をしてやっていただきました。

#### ●知 事

なるほど。今回進める中でいろいろな新しい発見とかもあったということですか。

#### 〇事例発表者 (勝田)

はい。そうです。

#### ●知 事

すごくすてきな雰囲気ですね。これはどなたがデザインされたのですか。

#### 〇事例発表者 (勝田)

デザインといいますか、もともとの家がものすごくいいところで、あとの間接照明とかの照明関係だったり、配置などはすべて自分たちで話し合ったり、弊社の社長のお姉さんとか、ものすごくそういったところを見てこられたので、そういった話も伺いながら、進めながら決めていったという感じです。

#### ●知 事

本当に自分たちだけの手であれだけすてきなものができあがる。しかも,ほとんどつくっている人も芸北の皆さんでつくられたということで,すごく力があるんだなと実感をしました。ありがとうございます。

そして、これから経営がこれまた大変ですね。見込みはどうですか。

#### 〇事例発表者 (勝田)

まだメディアへの露出とかはしていなくて、今、唯一フェイスブックだけはずっと情報 を発信している状態です。

冬季は雪がかなり降りますので、営業は今月いっぱいにさせていただく予定です。

#### ●知 事

冬季はお休み。

#### 〇事例発表者 (勝田)

はい。で、また来春からの営業になるので、冬は熊と一緒に冬眠しますが、ですので、 また春からそういった露出も含めて少しずつ展開していきたいと考えております。

#### ●知 事

ちなみに、安芸太田でこの会をやったときにソーセージをつくっておられる方のところにお邪魔したのですけれども、フェイスブックのインターネットの発信で本当に遠くからお客さんが来られているということで、今の時代はそういうことも活用できると思いますけれども、そして、こうやって人のつながりからこういうものをつくってきて、そして、それを次の子供たちにつなげていきたいと。

#### 〇事例発表者 (勝田)

はい。そうですね。そういった思いはかなりありまして、オープン前から芸北中学校が私たちの「さくら亭」の横にあります茶室を使って授業をしたりという取り組みもさせていただきました。芸北中学校が今「挑戦科」という授業をしているそうで、そちらのほうで模擬店舗をやりたいということで、是非そういうのであればということで、そういった次の世代の若者たちにもつなぐということは頭に入れてやっております。

#### ●知 事

勝田さんはこうやって、にこにこ、さらっと言っておられますけれども、実際は大変だと思います。古民家の床をはがすところから始まって、大工さんとかいろいろな人を集めてお願いをして、そしてこういう形になって、そしてさらにお客さんに来てもらう。そして、子供たちにもそれを伝えていく。本当にすごくたくさんのことをやっておられて、でも、その原動力はやっぱり芸北愛ということですね。

#### 〇事例発表者 (勝田)

そうですね。

#### ●知 事

愛があれば何でも乗り越えられる。夫婦だけではないということでしょうか。

これから様々なチャレンジ、様々な困難に直面することもあると思いますけれども、今日「せどやま」の皆さんも来られていますけれども、いろいろなつながりの中で頑張っていただければと思います。きっと皆さんも食べに来てくれるのではないですか。いかがで

しょうか。(拍手)

#### 〇事例発表者 (勝田)

ありがとうございます。

#### ●知 事

是非島田さんの絵も飾ってください。

#### 〇事例発表者 (勝田)

是非よろしくお願いします。

#### ●知 事

それでは、本当に頑張っていらっしゃいます勝田さんにもう一度大きな拍手をお願いい たします。ありがとうございました。

#### 〇事例発表者(勝田)

ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

ちなみに、会社のヒラト産業さん、アマゴの養殖をやっておられますけれども、そこも 以前のこの会でお邪魔をさせていただいて、その後、私は子供たち家族を連れてアマゴ釣 りに寄せていただきまして、本当に喜んでいました。アマゴがぴちっぴちっとなる感覚が すごくうれしくて、都会の子供たちは本当にそういうところが喜ぶツボだなというのを改 めて感じました。

## 事例発表③

#### ●知 事

次の発表ですけれども, 大朝中学校2年生の大野翔汰さんと國芳勝也さんにお願いします。

大野くんは、おばあさんの影響で農業に興味をもたれて、先ほどもちょっとお話がありましたが、現在は一人で畑を耕して収穫ができるようになったということです。

農業学校へ進みたいということですかね。農業学校へ進んだ後は、将来、地元大朝で農業に就いて、自分の作った野菜をたくさんの人に提供したい。芸北産じゃなくてもいいですよね。はい。流通ルートが一つできましたね。たくさんの人に提供したいと、日々農作物栽培の知識の習得と学業に励んでいるということです。

大野くんの発表に先だって國芳くんから大朝中学校の紹介もしていただきます。それでは、発表のテーマは「畑作りと私の夢」です。それでは、大野くん、國芳くん、よろしくお願いします。(拍手)

#### 〇事例発表者 (國芳)

こんにちは。(「こんにちは」の声あり)私は北広島町立大朝中学校生徒会書記の國芳勝 也です。私の通っている大朝中学校は、1年生11名、2年生17名、3年生22名の合計 50名の山間部にある小さな学校です。小さな学校ではありますが、ふるさとを思う気持ち はとても大きなものがあります。大朝中学校では総合的な学習の時間をはじめ、学校全体 でふるさと学習に力を入れています。

その一例として、地域のボランティア清掃、配食サービス、リサイクル活動などを行っています。また、地域の行事にも積極的に参加しています。今年度は初めて大朝小学校、新庄小学校、大朝中学校の3校合同合唱を大朝ふるさと祭りで地域の方を前に発表しました。

私たちのふるさと大朝を学び、地域の人たちとふれあう中で、地域を大切にする心と愛着心は着実に 50 名の生徒に育っていると感じます。そのことは広島県を元気にすることにもつながると思っています。

今日はそんなふるさと大朝で、農業に従事することを夢にしている友達の大野翔汰くん の意見作文を発表してもらいたいと思います。(拍手)

#### 〇事例発表者 (大野)

こんにちは。(「こんにちは」の声あり) 北広島町大朝中学校から来た大野です。今日は 農業について発表します。聞いてください。

「畑作りと私の夢」

#### 大朝中学校 大野翔汰

僕の夢は、自分で作った野菜を食べてもらい、みんなの笑顔が増え、幸せになってもらうことです。その夢をかなえるために、今、畑で勉強しています。

小学校のころから祖母が働く畑を手伝っているうちに,だんだんと野菜作りについて興味を持ちました。現在は一人で畑を耕し,種をまき,収穫できるようになりました。

こういったことができるようになったのも、祖母から畑のことについていろいろ教わったからです。祖母から教わったことは次の五つです。

- 一つ目は、鍬で畑の畝をつくるときは、土をバランスよく分けることです。
- 二つ目は,茎と茎の間にある分け目を摘めば,必要なところに栄養がいき,野菜は大きくなるということです。
  - 三つ目は、肥料の量は野菜の種類や畑の大きさによって変わることです。
  - 四つ目は、野菜は人と同じ命を持っていることから大切に育てるということです。
- 五つ目は,野菜に愛情を込めて育てたら,野菜は作った人に応えてくれるということです。

祖母は僕に野菜を作る技術と心を教えてくれました。このことから今では野菜を作ることが本当に好きになりました。そして、家族から「野菜、おいしかったよ」という声を聞くと、ますます野菜を作ることが好きになり、育てることの楽しさが増えました。

今、さらに鶏を飼育し始めました。きっかけは職場体験で有機農業をされている方の農

場に実習に行ったときのことです。そこでは鶏を飼育されていました。僕は数日間の実習の中で鶏を育てていきたいと思うようになり、その方から雛を4羽もらいました。そのとき、動物の命を預かっているということを胸に深く刻んでおきなさいと言われました。僕は責任を持って最後まで飼育していかなければいけないと考えました。現在随分大きくなり、そのために鶏小屋をつくっています。僕は野菜作りや鶏を育てるという体験から、農業や畜産の仕事に関心を持つようになりました。だから、将来、農業高校に進学しようと思っています。苦手な勉強も分からないなりに少しずつ努力していこうと思います。そして、将来広島県の皆さんに喜んでもらえる野菜を作り、幸せな笑顔を広げていきたいと考えています。そして、夢を大朝の地で実現していきたいと思います。

最後になりますが、僕と家族が作った野菜です。湯崎さん、食べてみてください。(拍手)

#### 〇事例発表者(國芳)

ふるさと大朝, そして, 大朝中学校が大好きな僕たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

大野くん, 國芳くん, どうもありがとうございました。今ちょうどいただいたものに書いてあるのですけれども, お米も完全無農薬, 無化学肥料, 無除草剤, 天日干し, 自然農法で栽培しましたというのと, お野菜はこのとおり, ジャガイモと椎茸とタマネギですけれども, 椎茸もすごく立派ですね。椎茸も作っているのですか。

#### 〇事例発表者(大野)

家族で作っています。

#### ●知 事

なるほどね。すごく立派です。しっかりいただきます。

今,お二人の発表はいかがでしたか。(拍手)すごくしっかりしていて,本当にお二人とも楽しみだなと思うのですが,まず,國芳くんに聞きたいのですけれども,大朝中学校,こういう感じでみんな元気,はきはきしていますか。

#### 〇事例発表者 (國芳)

みんなすごく元気です。有り余るぐらい元気です。

#### ●知 事

そうだよね。自然の中でね。

そして,小学校とか,一緒に活動することもあるのですか。

#### 〇事例発表者 (國芳)

はい。あります。5月は町内の学校で、別ではあるのですけれども、遠足に行ったり、 地域のボランティア清掃も、大朝小学校と大朝中学校で一緒に清掃しています。

#### ●知 事

そうですか。では、本当に小さい子供たちの指導もするようになるわけだね。そういう

のがしっかりする一つかなとも思います。

そして、大野くん、大きな夢ですね。一番楽しいのはどういうところですか。野菜作りで一番楽しいなと思う点はどこですか。

#### 〇事例発表者(大野)

野菜を自分で作って、最後、家族のみんなにあげるときに「おいしかったよ」と喜んで もらえるのが僕にとって最高のことです。

#### ●知 事

なるほどね。いろいろな楽しみがあると思うのですが、野菜がどんどん大きくなっていくところが楽しいとか、それが不思議だとかいろいろな見方があると思いますけれども、食べてもらって喜んでもらうのが一番うれしいというのも、うれしいですね。将来は広島県の皆さんに食べてもらって、喜んでもらいたいですか。

#### 〇事例発表者(大野)

はい。

#### ●知 事

僕らもそういう野菜をいただきたいですよね。やっぱり喜んでほしいと思って作っているような野菜をいただくと、本当においしいと思います。しっかり夢を持っておられます。 國芳くんは将来どんなことをしたいとかあるのかな。

#### 〇事例発表者 (國芳)

いや,特に。今,考え中です。

#### ●知 事

普通の中学生はそうですよね。僕も中学校のころはこんなことをやりたいとあまり思ってなかったですけれども、当時は天文学者になりたいとか、そんな感じに思っていましたけれども。今、東大の天文学者さんが芸北には一人来られていますね。そういう意味でこれから國芳くんはいろいろと考えていくと。大野くんは夢に向かって歩んでいくということで、二人ともしっかりとした大朝の代表として発表していただきました。これからとても楽しみなお二人、大野くんと國芳くんにもう一度大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

#### 〇事例発表者 (國芳・大野)

ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

きっとおばあちゃんの影響というのが大きいんでしょうね。そういうつながりがあるというのも地域の特徴ではないかと思います。

## 事例発表④

#### ●知 事

続いて次の発表にいきたいと思います。豊平中学校3年生の西本航大くんと2年生の平田有香さんのお二人です。西本くんと平田さん、豊平中学校に通っているわけですが、小中一貫校豊平学園として幅広い異年齢集団による授業や行事等を通じて、豊かな人間性・社会性を育んでおられるということです。

地域の清掃活動や行事に積極的に参画する一方で、地域の住民の皆さんから学校運営に係る様々な支援のほか、駅伝の特別指導を受けるなど、地域と一体となった学校づくりを行っておられるということです。

今日の発表のテーマは「豊かで平和な町 豊平に抱かれて」です。それでは、西本くん、 平田さん、よろしくお願いします。

#### 〇事例発表者 (平田)

それでは、豊平中学校の発表をします。発表させていただくのは生徒会書記の2年平田 有香と生徒会会長の3年西本航大です。よろしくお願いします。(拍手)

初めに、豊平中学校の全容について説明します。昨年4月、豊平地域の3つの小学校が統合し、豊平地域では小学校が1校となりました。小学校新校舎が中学校敷地内に完成した10月から、山県郡内初の併設型小中一貫校豊平学園として新たな歴史を私たちは歩み始めました。開園当日、地元の方には宝船を出していただくなど、大変喜んでいただきました。

併設型小中一貫校なので小中が合同で行う行事もたくさんあります。この写真は合同で行っている遠足や体育祭、文化祭、スキー教室の様子です。また、行事だけでなく、児童会、生徒会の交流もしています。朝のあいさつ運動もその一つです。また、学期に1回程度、小中合同授業を行ったりもしています。日常的な児童、生徒の交流、幅広い年齢での交流ができるのも、ほかの地域、学校ではできない豊平ならではの取組です。

次に全校生徒に行ったアンケート調査の結果をもとに、豊平中学校についてお話しします。「豊平は好きですか」の問いに対して、97%の生徒が「好き」という回答をしています。 その理由は、「豊平の自慢は何ですか」という問いに対する回答と重なっているものがほとんどでした。一番多かった回答は、「自然が豊か」でした。

豊平の自然の豊かさを中学校の背にそびえ立つ豊平を象徴する山、龍頭山を例に挙げて ご紹介します。

夏,山の木々はその緑色をより濃くし、龍頭山から吹き下りる風はとてもさわやかです。 秋,山は紅葉に染まっていきます。頂上から次第に麓へと紅葉が進むことで、私たちは 秋の深まりを感じ取ることができます。また、校舎からグラウンド側を見下ろすと、雲海 が見えます。今のこの時期はほぼ毎日見ることができ、とても幻想的です。

冬,山は一転して銀色に染まり、厳しい表情を見せます。しかし、やがて命が芽吹く春には山は新緑で覆われます。また、龍頭山の頂上に登れば、天候がよく空気が澄んでいる

日には、遠く瀬戸内海に浮かぶ宮島を見ることができます。

#### 〇事例発表者 (西本)

二番目に多かったのが「そば」です。この写真は9月末から10月初旬に満開を迎えたそばの花です。ここ豊平では、「とよむすめ」という品種のそばが栽培されています。そして、豊平中学校の一番の強みは、地域の物や事を行事やいろいろな活動に取り入れられることです。秋の行楽シーズン前には、地域の方と一緒に龍頭山への山道を全校生徒で掃除します。また、豊平どんぐり村で行われる弘道お兄さんの体操教室をはじめ、様々なイベントにボランティアとしても活動しています。

今年度、豊平手打ちそば保存会の皆さんの協力によって、豊平中そばうちクラブもできました。豊平といえばそば、そばといえば高橋名人、髙橋名人直伝の打ち方を心と技を少しでも中学生が伝承できればと頑張っています。

また、本校には陸上部はありませんが、地域の方にコーチをしていただきながら駅伝に 挑戦してきました。その結果、今年9年ぶりに中国中学校駅伝大会出場を果たすことがで きました。

終わりに、「自分も将来地域に貢献していきたいですか」という問いに対しては、90%の 生徒が「そう思う」と答えています。

このコメントは10月に行った豊平学園の地域公開においでいただいた方の感想です。子供の力を向上させるために、どんな協力も惜しまないと言っていただいています。豊平中学校では、先ほどお話ししたように、豊平地域ならではの物や事を学校の活動に取り入れています。そのすべてを支えていただいているのは人です。「豊平は好きですか」「豊平の自慢は」の理由や回答には、「地域の人が優しい」「地域に絆がある」もありました。豊平地域の一番の宝は人だと思っています。

僕たちは地域の方からとてもお世話になっています。だからこそ、僕たちの元気ではつらつとした姿、一生懸命頑張る姿をお見せすることが、地域にできる一番の恩返しだと思っています。これからも全校生徒でいろいろなことに挑戦していきます。以上で豊平中学校の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

西本くん、平田さん、どうもありがとうございました。今のお二人の発表も、いかがで したか。(拍手) ね。すごくお二人もしっかりしていて、見るからに中学生なんですけれど も、大人顔負けのしっかりとした発表でしたね。

そして, 学校, いいですよね。今は毎日雲海が見える。

#### 〇事例発表者(西本)

はい。毎日この時期には雲海が見えて、とてもきれいです。

#### ●知 事

そして山もね、今、紅葉はどんな感じなのですか。

#### 〇事例発表者 (西本)

紅葉は、大体山の3割程度から4割程度は、赤とか黄色とかに色づいて、とてもきれいになってきています。

#### ●知 事

進んできましたか。そうですか。そういう環境があるというのは、本当にすばらしいことですよね。それこそ都会の学校では絶対にあり得ないようなことを毎日経験しているということで、そして、そばの体験というか、保存会で伝承したりとか、そして、地域の人といろいろな活動をしていくということもやっているということで、何と言っても「豊平が好き」というのが97%。

#### 〇事例発表者 (西本)

はい。アンケートをとっていただいた結果、そうなりまして、とてもうれしいです。

#### ●知 事

自分たちがその結果を見たとき、どう思いましたか。うれしいというのはもちろんだけれども。

#### 〇事例発表者 (西本)

僕も豊平が好きなんですけれども、みんなが「好き」と言ってくれるから、これから頑張っていこうと思えます。

#### ●知 事

そうですよね。これからお二人とも、平田さんはまだ2年生だからこれからだと思うのですけれども、今後の進路とか将来の夢みたいなものはどういうふうに考えていますか。

#### 〇事例発表者(平田)

まだ考え中です。

#### ●知 事

西本くんは。

#### 〇事例発表者 (西本)

僕はまだまだなんですけれども、将来の夢は医者になることで、この豊平病院というところは内科の先生が常時いなくて、週に3日ほど来られる感じです。僕がもし医者になったら、内科の先生になって、そこで診療して、病気の方とかを助けられたらいいなと今、思っています。(拍手)

#### ●知 事

そうですか。皆さん、西本くんの勉強を見てやってください。

#### 〇事例発表者 (西本)

お願いします。

#### ●知 事

そして最後に言ってくれたのが、豊平の一番の宝は人だということですよね。このお二

人も,その宝の二人じゃないかと思います。この二人の将来も本当に楽しみですけれども, 豊平が好きということで,どんな形にしても地域にこれから貢献してくれるのではないか と思います。そういう期待も込めて,もう一度大きな拍手をお二人にお願いしたいと思い ます。(拍手)ありがとうございました。

#### 〇司 会

ありがとうございました。以上で予定の事例発表は終了となります。すばらしい発表を 本当にありがとうございました。

## 閉 会 ⑤

#### 〇司 会

それでは、ここで湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

#### ●知 事

今日の発表,4組の皆さん,本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げたいと思います。いかがでしたでしょうか。ここ北広島町も、いわゆる分類としては過疎地域となっておりまして、高齢化が進んで、人口も減っていくと、そういうところで、そして、今、病院の話も出ましたけれども、お医者さんも少なくていろいろ苦労がある。いろいろな難しいことは確かにあると思うのですけれども、でも、いろいろないと思っていても、こうやってお話をお伺いすると、いろいろなものがやっぱり実はあるのではないかということを私は今日感じました。

よく地域には自然があるじゃないかと言われますけれども,ただ自然があると言っても, それは本当にただ自然があるだけですけれども,今日発表いただいた大人のお二人,島田 さんと勝田さん,その自然を活用してというか,自分のエネルギーにして活動していらっ しゃいますし,子供たちも実際にその恩恵を受けて育っているというのがまたよく分かり ました。

そして、本当にないと思っても、地域にいろいろな力を持った人がいて、その輪が広がればいろいろなことができる。本当にすてきなお店ができたりとか、あるいは地域の人が集まる場所ができて、そこへほかの地域から子供たちがやってきて、そして生き生きとして帰って行く。そんなことができるということだと思います。そして、何よりも、子供たちも、地域とのつながりが深いだけに、その地域愛が本当に深いと思います。これは都市部の会でやるときによく聞くんですけれども、「将来は広島に残りたいですか」と。半分ぐらいは「出て行きます」と言われるんですよ。ひょっとしたらいったんは出て行くかもしれませんけれども、これだけ地域に強いつながりを持ってくれていると、いろいろな形でまたどこにいても貢献してくれるのではないかということを改めて感じます。

県でも中山間地域振興条例というのを昨年つくりまして、今、ちょうどそれに基づく中山間地域振興計画というものをつくっております。今日のお話にもあったように、地域にないものに着目するのではなくて、地域にあるものに着目する。それから、地域があまり好きでない人に着目するのではなくて、地域が好きな人、そこで力を発揮したい人、発揮できる人に着目して、そして、そういう人たちや力を集めて、もっともっといい地域にしていきたい。そんなふうに考えています。そして、それは今日発表してくれた皆さん、もちろんとてもすばらしい力を持った人たちですけれども、決してスーパーヒーローとか、こんな人は世の中にいないよというような人たちではないと思います。普通の人といったら怒られるかもしれませんけれども、普通の人です。決してそういう力を発揮するのに特殊な能力だとか、特殊な力がいるということではないと思います。一人一人の皆さんがちょっと頑張るとか、ちょっと思いを強くするとか、行動してみるとか、そういうことがいろいろなことにつながっていくのではないかというのも、今日皆さんのお話をお伺いして改めて感じたところであります。

是非今日をきっかけに、また皆様方もそれぞれの持ち場、職場であるとか、地域であるとか、いろいろあると思いますけれども、日々やっておられることをさらにもう一歩進んで、どんなことができるかというふうに考えていただいたら、それが集まって広島県全体としては大きな力になっていくのではないかとも思いますので、是非それぞれお戻りになって考えていただければというふうに思います。そして、いろいろな挑戦の輪が広がっていけばいいなと思います。

最後,実はお願いがございます。今日,配付した資料の中にチラシが1枚入っていると思うのですが,広島県ではテレビのデータ放送を活用して,高齢者に健康や医療,地域情報を簡単に提供できるシステムづくりに取り組んでおります。今年の4月からサービスを開始していますが,RCCのチャンネルで,健康ニュースや病院の情報などを得ることができます。また,体重や血圧などの変化をテレビ画面で見て,自分の体調管理も行うことができます。

テレビがインターネットに接続されている場合には、離れて暮らす家族などに健康状態をメールで知らせることができる見守り機能というのもあります。是非ご利用いただければと思っております。あとでまたチラシをごらんいただいて、試していただければと思います。

それでは、改めまして、今日発表いただきました4組の皆様に大きな拍手をお願いいた します。ありがとうございました。(拍手)

本日は以上で終了したいと思います。本当にありがとうございました。(拍手)

#### 〇司 会

以上をもちまして「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジトーク」を閉会します。ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお,ご来場時にお渡ししたアンケートと,地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたしますので,よろしくお願いいたします。

また、地域の宝ネットワークにおいては、フェイスブックによる情報の交流を行っておりますので、是非ご参加ください。

本日はご参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。(拍手)